

## 平成30年度第1回北海道子どもの未来づくり審議会 議事概要

日 時 平成30年7月18日(水) 18:00~20:00

場 所 かでる2・7 510会議室

出席委員 松本会長 / 多田委員 / 藤井委員 / 野村委員 / 梅田委員 / 亀井委員 /  
西村委員 / 川島委員 / 山田委員 / 稲葉委員 / 内藤委員 / 五嶋委員

事務局 花岡子ども未来推進局長 / 鈴木子ども子育て支援課長 /  
森本自立支援担当課長 ほか

### 議 事

#### [審議事項]

(1)「北の大地☆子ども未来づくり北海道計画」の推進状況について

○事務局から、資料1に基づき説明

○委員の主な発言(要旨)

- ・婚活支援事業を実施しているが、婚活イベントをすること自体に一定の効果はあるのか。少子化対策の中でできる初期の子育て支援に、限られた予算と資源を集中させた方がいいのではないかと考えている。結婚初期のところにしても良い形がないかと考えている。
- ・婚活事業について、5講座で参加者27人という状況では、道の事業としてやるのはいかがと思うところがある。少子化というのは、地方から教育と医療と雇用の3つが抜け落ちているからこそであり、婚活をしたからといって結婚する若者が増えるというイメージはない。改善の余地があると思う。
- ・男性向けの子育て支援講座について、普通のご家庭のお父さんでも虐待のグレーゾーンに近いような対応をしてしまうことはある。ただ、「子育て支援講座やります。来てください。」と言って実際に来てくれるとは限らないので、そういう人達にいかにか子育て講座の情報を届け、より充実させていくかということが課題だと思う。
- ・学校への出前講座は、男性も子育てにきちっとコミットしていくような観点が大事ということを積極的に伝えていくことで、父親の子育て講座に来るようなことを含めて、地ならしの面で大きいと感じている。
- ・重点施策目標2において、子育て支援の充実イコール待機児童ゼロの達成と読み取れる点が気になる。社会全体で子どもの育ちや子育てを支えるという啓発は継続していくことが必要かと思う。
- ・地域子育て支援拠点などに行く継続的な研修を計画の中に盛り込み、毎年研修を受けられるようにしていただきたい。
- ・子育てに関する正確な情報提供について、家族のあり方や色々な人の生き方が多様化しているので、多様性への対応について盛り込まれた方がいい。
- ・子育て支援員養成研修を多くしていただければ、待機児童解消にもつながるのではないかと。何年間か子育て支援員として勤めたら保育士の資格を取ることが少し楽になるようにしてもらえればと思う。そうすると支援員を希望する人も増え、待機が解消でき、

保育士の仕事が軽減されるということに繋がると思っている。

- ・切れ目ない支援において、子育て世代包括支援センターの設置の促進があるが、道内の設置数や具体的な取組について確認したい（事務局より実態状況を説明）。
- ・特定妊婦に対する支援について、「妊娠・出産」のステージに入ると思うが、入れておくべきではないのか。特定妊婦は母子保健マターだけではなくて、子どもの未来づくりというところでも核になるということで計画を作っていければと思う。
- ・社会的養護自立支援事業は、自治体がどのようにアフターケアに関与するかという観点で、施設だけではなく自治体の仕事として関わっていこうということなので、次の計画に繋げていただければと考えている。

## （２）平成３０年度北海道子どもの未来づくり審議会子ども部会の運営について

○事務局から、資料２に基づき説明

○委員の主な発言（要旨）

- ・今回のような形で意見をもらうのも大事だが、昨年のような形も今後取り入れながら考えていただければと思う。
- ・少子化についてどう思いますか、子育て支援についてどう思いますかと言われても、子どもは具体的にイメージしにくいので、子どもがすごしやすい地域や学校など、子どもにとっていいようなもの、地域ということを含めて、意見を聴取していただくなど、全体を仕切っていただいたほうが子どもの審議会としての持ち味がいきると思う。
- ・自分の将来を考えた時にどういう北海道だったら良いかということも含めて議論できると良いのではないか。

## （３）平成３０年度「ほっかいどう未来輝く子育て大賞」について

○事務局から、資料３に基づき説明

○委員の主な発言（要旨）

- ・実際に受賞された方に対して、どのように励ますようなことになっているのか（事務局より昨年度の状況について説明）。

## 〔報告事項〕

・ひとり親家庭生活実態調査結果および北海道子どもの生活実態調査（乳幼児調査）結果について

○事務局から、報告資料に基づき説明

○委員の主な発言（要旨）

- ・子ども食堂について、安全性の観点から周りに告知しにくいところがある。道や市町村がきちんとプラットフォームとして整備を進めていただければと思う。
- ・お子さんの年齢が上がると働く世帯が増えるのに、生活状況がぎりぎりになる方が多いという点では、学校や教育費の負担が大きいと感ずるので、その点も掘り下げていただきたい。
- ・食事を摂ることや学習塾等に関しては、子どもの年齢で異なるので、丁寧に年齢ごとに見ていくことが必要。子どもに関わるデータについては、子どもさんの年齢を考慮して

色々解釈や分析をしていただきたい。

- ・子どもを病院に連れて行った方が良いと思うが受診させなかった理由として、「仕事で連れて行くことができなかった」という回答が多い。北海道は中小企業が多く、両立支援が十分に進んでいないと思うので、今後の施策の中で反映させていただきたい。